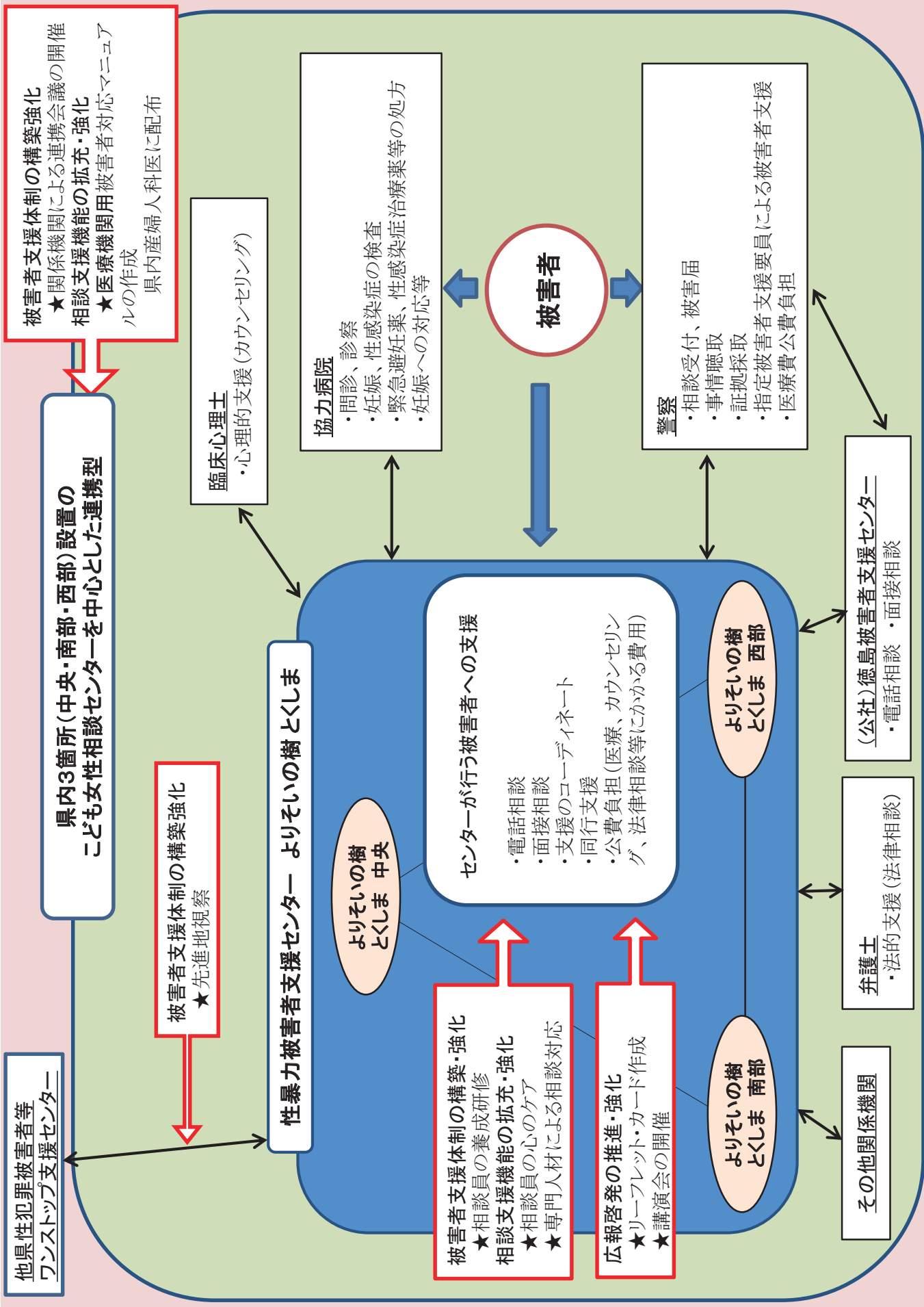


徳島県

# 徳島県における性暴力被害者支援体制

★=内閣府モデル事業



## 徳島県：関係機関による連携会議（被害者支援体制の構築・強化）

### 1. 実施前の課題

本県では、性暴力被害者支援センターの早期開設を目指したため、開設までの準備期間が短く、当モデル事業実施計画策定時にはどの機関とどのような連携を図っていくのか未定の状況であった。関係機関との連携体制を一から構築する必要があった。

### 2. 実施による成果目標

関係機関による連携会議を、1回以上開催し、円滑な支援に向けての調整・協議を行う。

### 3. 実施結果

平成28年5月26日に第1回目、同年6月16日に第2回目、同年10月20日に第3回目の関係機関による連携会議を開催した。（第3回目のみ当モデル事業により開催。）

構成機関：徳島県産婦人科医会、徳島県臨床心理士会、徳島弁護士会、（公社）徳島被害者支援センター、徳島県警察本部、県関係機関（中央・南部・西部各こども女性相談センター、精神保健福祉センター、男女共同参画交流センター、障がい者相談支援センター 他）

#### <第1回目>

開催日時：平成28年5月26日（木）16:00～17:00

- 議事：（1）性暴力被害者支援センターの設置について  
（2）性暴力被害者支援センター運営方針（案）について  
（3）意見交換

#### <第2回目>

開催日時：平成28年6月16日（木）15:00～17:15

講演：ウィメンズセンター大阪代表 原田 薫 氏

「性暴力被害者支援センター・大阪 SACHICO の実践から見えてきたこと～当事者が求める性暴力救援センターとは～」

議事：性暴力被害者支援センターの設置に係る関係機関の連携について

#### <第3回目>

開催日時：平成28年10月20日（木）14:00～15:30

- 議事：（1）「よりそいの樹 とくしま」の運営状況について  
（2）意見交換

### 4. 実施の成果

開設前に開催した会議では、関係機関の連携による支援に向けての体制整備が進んだ。また、

開設以降に開催した会議においては、未調整であった事項について調整が図られた。

## 5. 実施後の課題（現状）

開設より間がなく、関係機関の連携による支援実績が少ないため、連携して支援する上での具体的な問題点が見えてこない状況。今後、支援実績を積み重ねることにより、よりよい連携へ向けて改善すべき点なども見えてくると思われる。その時に連携会議の場が有用に機能するよう今後も定期的に関催する方針。

## 徳島県：相談員養成研修（被害者支援体制の構築・強化）

### 1. 実施前の課題

本県では、配偶者暴力相談支援センターが置かれている婦人相談所である県内3カ所のこども女性相談センターの女性支援担当に機能を追加する形で性暴力被害者支援センターを開設した。そのため、性暴力被害者支援センターの相談員は、従来、DV相談や女性相談を受けている女性支援相談員（婦人相談員）が兼ねることとなり、相談業務についての基本的な知識は持っている者が多かった。ただ、性暴力被害者への対応については、より専門的な知識・技術を必要とするため、専門的な研修が必須であるが、開設までの準備期間が短く、十分な研修を設定できなかった。

### 2. 実施による成果目標

相談員に、性暴力被害者支援に必要な専門的な知識・技術を身につけてもらえるよう、6日間の体系立てた研修を設定する。

### 3. 実施結果

次の通り、6日間の研修を実施した。（いずれも実施場所は徳島県中央こども女性相談センター。）

<第1日目>

日程：平成28年9月5日（月）

出席者：17名

○1 限目

時間：10:30～12:00

講師：徳島弁護士会犯罪被害者支援センター委員長 白川 剛 氏

内容：犯罪被害者に対する法的支援

○2 限目

時間：13:00～14:30

講師：徳島県警察本部 刑事部 捜査第一課 強行犯係長

警部補 新居 千鶴 氏

内容：徳島県警察における性犯罪被害者への対応

○3限目

時間：14：40～16：10

講師：徳島大学 保健管理・総合相談センター総合相談部門 講師

井ノ崎 敦子 氏

内容：性暴力被害者相談員のこころのケア

(※3限目については「相談員の心のケア事業」の一環として実施。)

アンケート結果：別添のとおり。以下は自由記載部分から。

- ・ (裁判の) 流れがわかり勉強になった。一度刑事事件を傍聴したいと思った。
- ・ とともリアルに警察の対応などを知ることができ、今まで全くイメージもできなかったことばかりだったので、とてもよくわかってよかった。 など

<第2日目>

日程：平成28年10月3日(月)

講師：ウィメンズセンター大阪代表

性暴力救援センター・大阪SACHICO運営委員 原田 薫 氏

出席者：19名

○1限目

時間：10：30～12：00

内容：子どもの性暴力被害の実態

○2限目

時間：13：00～14：30

内容：性暴力が子どもに及ぼす影響

○3限目

時間：14：40～16：10

内容：性暴力被害を受けた子どもへの対応

アンケート結果：別添のとおり。以下は自由記載部分から。

- ・ 子どもは弱い立場であるけれど、対等意識をもって対応すること、言語化が上手くできないことに留意して対応することがとても印象に残った。
- ・ (加害者が) 大人と子どもの圧倒的な力の差に逆らえないことを利用しているのが分かった。
- ・ 性暴力を受けた人だけでなく、身近な人への支援も必要であることを知った。 など

<第3日目>

日程：平成28年10月31日(月)

講師：ウィメンズセンター大阪代表

性暴力救援センター・大阪SACHICO運営委員 原田 薫 氏

出席者：18名

○1限目

時間：10：30～12：00

内容：性暴力被害者への適切な支援のために～アドボケーター（支援員）としてのスタンス

○2限目

時間：13：00～14：30

内容：性暴力被害者への適切な支援のために～二次被害を与えない対応の基本

○3限目

時間：14：40～16：10

内容：性暴力被害者への適切な支援のために～エンパワメント・アプローチ

アンケート結果：別添のとおり。以下は自由記載部分から。

- ・ 支援者としての姿勢を改めて確認できた。
- ・ 性に対する思い込みや偏見を伝えられるよう理解に努めたい。
- ・ 二次被害を与えないために、普段から自分の感覚を見つめ直していくことと、不用意な発言に注意していきたい。 など

<第4日目>

日程：平成28年11月9日（水）10：30～16：10

講師：性暴力救援センター・大阪SACHICO代表、産婦人科医

加藤 治子 氏

内容：ケーススタディ&ロールプレイ

出席者：10名

（※第4日目、第5日目については「専門人材OJTによる相談対応事業」として実施。）

アンケート結果：別添のとおり。以下は自由記載部分から。

- ・ （今まで）「どう来所につなぐか」の視点が抜けていた。言葉を選んで相談（来所）につなぐことの難しさを感じた。
- ・ 事例を通して対応を学ぶことで大変よくわかりました。しかし、大変難しいということもよくわかりました。 など

<第5日目>

日程：平成28年11月21日（月）10：30～16：10

講師：性暴力救援センター・大阪SACHICO代表、産婦人科医 加藤 治子 氏

内容：ケーススタディ&ロールプレイ

出席者：14名

アンケート結果：別添のとおり。以下は自由記載部分から。

- ・ 実際にロールプレイを行うと自身に何が足りないのか、どんな聞き取りが必要なのか客観的に知ることができた。
- ・ 来所を促す方法が分かってとても参考になった。 など

<第6日目>

日程：平成28年12月21日（水）10：30～16：10

講師：Center for HEART/HEART カウンセリング・センター 代表 熊谷 珠美 氏

内容：ピア・スーパービジョン

出席者：14名

アンケート結果：別添のとおり。以下は自由記載部分から。

- ・ 今回の研修を受けて頑張る自分を見出すことができた。人をほめる、ほめてもらうことにより心がフェアになると思った。
- ・ 肯定することの大切さを学んだ。
- ・ ピア・スーパービジョンのシステムがとても分かりやすく参考になり、すぐに取り入れられると思いました。 など

#### 4. 実施の成果

相談員が、性暴力被害者支援のための専門的な知識・技術を身につけることができた。

#### 5. 実施後の課題（現状）

開設より間がなく、相談実績が少ないため、身につけた知識・技術を実践に生かす場が少なく、実践からのフィードバックが得られていない状況。今後、相談件数が増えるにつれ、研修で得た知識・技術が実際の相談支援に生かされることにより、相談員の自信に繋がっていくものと思われる。

今後も、継続的な研修やスーパーバイズ、ケース検討の機会の確保が重要な課題である。

### 徳島県：先進地視察（被害者支援体制の構築・強化）

#### 1. 実施前の課題

平成28年7月に開設し、運営を始めたものの、よりよい支援のあり方や医療機関との連携について、先進地の状況を参考に検討する必要がある。

また、本県では、関係機関や関係する支援者の研修を兼ねて実施した。

#### 2. 実施による成果目標

(ア)先進地を1箇所以上視察する。

#### 3. 実施結果

実施日程：平成28年11月27日（日）12：30～17：30

視察先：①ウィメンズセンター大阪

②性暴力救援センター・大阪（SACHICO）

視察スケジュール：

12:30	ウィメンズセンター大阪集合
12:30～13:00	顔合わせ、スケジュール確認等
13:00～14:00	ウィメンズセンター大阪見学
15:00～17:30	性暴力救援センター・大阪（SACHICO）見学

視察参加者：徳島県産婦人科医会 2名、徳島県臨床心理士会 2名、徳島弁護士会 5名、より  
その樹 とくしま（中央・南部・西部）7名 外3名 計19名

参加者の感想より：

- ・ 「ワンストップセンターとはこうあるべき」というものが、全てそろっていると実感した。これまでの研修で、施設の概要は理解していたが、実際に見学する意義は大きかった。
- ・ 民間による十数年の維持・発展と、今の仕組みをつくってきた情熱・使命感に対する敬意を感じた。
- ・ ヒト、モノ、カネが少ないなかで、どのように徳島方式を作り上げていくか関係部署をその気にさせないと器ができてもうまく回っていかないと感じる。 など

#### 4. 実施の成果

ウィメンズセンター大阪と性暴力救援センター・大阪（SACHICO）の視察により、性暴力被害者支援、また、支援に向けての関係機関連携のあるべき姿について、関係機関の職員やよりその樹 とくしまの支援員との間でイメージの共有が図られた。また、相談者への対応についてなど、非常に有用な情報を得ることができ、持ち帰って現場での支援に活かすことができている。

#### 5. 実施後の課題（現状）

本県では、性暴力被害者支援センターの開設には至ったものの、まだ日も浅く、関係機関につなげたケースはまだない。そのため、関係機関との意思疎通を図る場面が少なく、性暴力被害者支援についてのイメージ共有が未だ不十分などところがあると思われるが、今後は相談件数が増えるに連れ、徐々に意志疎通が図られ支援体制の整備が図られていくものと思われる。

今回の成果については、参加者だけでなく、連携する関係機関全体で共有できるよう、次回の関係機関連携会議において報告したいと考えている。

### 徳島県：相談員の心のケア（相談支援機能の拡充・強化）

#### 1. 実施前の課題

本県の相談員は、日頃からDVの相談に当たっており、二次受傷についての基礎的な知識はある者が多いが、性暴力被害者からの相談を受けるにあたり、改めて、相談員の二次受傷防止と精神的負担の軽減を図る必要があった。

#### 2. 実施による成果目標

相談員に、性暴力被害相談を受けるに当たっての二次受傷防止と心のケアについて、基礎的な知識を持ってもらうとともに、現在抱えている、相談を受けるに当たっての不安や悩みを、臨床心理士による心理カウンセリングをうけることにより解消してもらう。



### 3. 実施結果

#### ○ 集合研修（講義）

日程：平成 28 年 9 月 5 日（月）14:40～16:10

講師：徳島大学 保健管理・総合相談センター総合相談部門 講師 井ノ崎敦子氏（臨床心理士）

内容：性暴力被害者相談員のこころのケア

出席者： 17名

アンケート結果：集計結果は「相談員養成研修」の報告に添付。以下は自由記載部分から。

- ・ グループワークを行ったり、いろんな話を聞いてよかった。二次受傷にならないよう、自分でできることから取り組みたい。
  - ・ 日常生活についてのオン・オフ、セルフケアの充実の大切さが分かった。 など
- ※ 相談員養成研修＜第 1 日目＞の日程に組み込んで実施。

#### ○ 臨床心理士との個別カウンセリング

日程：11 月 25 日（金）、12 月 6 日（火）、同月 12 日（月）、同月 13 日（火）、同月 20 日（火）各日 2 名、1 人当たり 1 時間

実施者：10 名（希望者のみ実施）

アンケート結果：別添のとおり。以下は自由記載部分から。

- ・ 自分の気持ちと向き合うときは、もう一人の自分とやりとりすることになり、結果葛藤して終わることが多いのですが、今回自分以外の第三者に話すことで吐き出しができたと思う。まず、先生が受け止めてくれたことで自分も前向きにとらえられるようになった。
- ・ 相談者の気持ちを体験できた。
- ・ カウンセリングを受けて精神的に楽になった。 など

### 4. 実施の成果

相談員が、性暴力被害相談を受けるに当たっての二次受傷防止と心のケアについての基礎的な知識を得ることができた。また、臨床心理士との個別カウンセリングにより、相談を受けるにあたり、現在抱えている悩みや不安感を軽減していただくことができた。また、相談者としての立場を経験することで新たな気づきがあったとの趣旨の感想も複数見られた。そういう意味でも支援者としての視点を広げることができるよい機会となった。

### 5. 実施後の課題（現状）

相談員は絶えず強いストレスにさらされることになるため、定期的に研修等を行うことにより、メンタルヘルス保持のための意識啓発を今後も継続的に図って行く必要がある。

## 徳島県：専門人材 OJT による相談対応（相談支援機能の拡充・強化）

### 1. 実施前の課題

性暴力被害者支援センターの開設に向けて、相談員の相談対応のスキルアップを図る必要があった。講義による研修の他に、相談員の不安軽減のためにも、経験者による OJT 研修やロールプレイによる事例検討研修など実践的な研修が望まれるところであった。

### 2. 実施による成果目標

本県に先立ってワンストップセンターを開設している都道府県の経験豊かな支援員等に来ていただき、実践的な研修を実施する。

### 3. 実施結果

<第1回目>

実施日程：平成 28 年 11 月 9 日（水）10:30～16:10

講師：性暴力救援センター・大阪 SACHICO 代表、産婦人科医 加藤 治子 氏

内容：ケーススタディ&ロールプレイ

ケース事例を基に、参加者が役割を分担して相談を受け付けるロールプレイを行うなど、実践的な研修を行った。

参加者： 10名

アンケート結果：「相談員養成研修」の報告に記載。

※ 相談員養成研修<第4日目>の日程に組み込んで実施。

<第2回目>

実施日程：平成 28 年 11 月 21 日（月）10:30～16:10

講師：性暴力救援センター・大阪 SACHICO 代表、産婦人科医 加藤 治子 氏

内容：第1回目と同様。

参加者： 14名

アンケート結果：「相談員養成研修」の報告に記載。

※ 相談員養成研修<第5日目>の日程に組み込んで実施。

### 4. 実施の成果

講義研修では得られない実践的な訓練を積むことができ、相談員の相談対応スキルの向上や不安感の軽減に役立った。

### 5. 実施後の課題（現状）

開設後間がなく、相談件数が少ないために、実際に相談を受ける経験を積むことが難しい中、非常に有用な研修となった。今後も引き続きこのような研修を実施する必要がある。

## 徳島県：被害者対応マニュアル作成（相談支援機能の拡充・強化）

### 1. 実施前の課題

性暴力被害者支援センターの開設にあたっては、性暴力被害者支援センター内だけでなく、関係機関との連携による支援の流れ等についても、予めマニュアルとして定め、関係機関との間で確認しておく必要があった。

### 2. 実施による成果目標

本県独自のマニュアルを定め、印刷製本した上で関係機関に配付する。

### 3. 実施結果

相談員が主に使用する「徳島県性暴力被害者支援業務マニュアル」については、県独自に作成、印刷し、関係者に配付済み。

当モデル事業においては、医療機関用マニュアル「性犯罪・性暴力被害者支援について」を印刷・製本した。同マニュアルは、徳島県産婦人科医会、徳島県警察本部及び性暴力被害者支援センター「よりそいの樹とくしま」が連名で作成したもので、県内の産婦人科医全員に配付予定。（開設に先立ち、一度配付しているが、改めて一部改訂を加え印刷した。）

印刷部数：130部

※他の書類と見分けが付きやすいよう、また、今後内容改訂を行った時に容易に差し替えができるよう、バインダーに綴じた形での仕上がりとした。

### 4. 実施の成果

産婦人科医に配付し、周知を図ることで、性暴力被害者支援についての意識の向上が図られ、連携協力が得やすくなると期待できる。

### 5. 実施後の課題（現状）

本県は、相談センターを中心とした連携型により性暴力被害者支援センターを運営しており、特に定まった拠点病院がないことから、複数の協力病院との連携を図っていく必要がある。性暴力被害者支援において、産婦人科医療は、非常に重要な位置を占めているところであり、また、関係機関の中でも特に産婦人科医は被害者と最初に接触する可能性が高いと思われる。今後も、マニュアルの周知を定期的に行うとともに、医師や医療従事者向けの研修会を行うなど、産婦人科医療機関との連携が十分に図られるよう努めていく必要がある。

## 徳島県：リーフレット・カード作成（広報啓発の推進・強化）

### 1. 実施前の課題

本県の性暴力被害者支援センター開設に当たり、周知を図る必要があった。

## 2. 実施による成果目標

相談件数の増加。

## 3. 実施結果

次の通り作成し、配付した。

### ○ リーフレット

仕様：A4三つ折り

部数：30,000部

### ○ カード

仕様：縦110mm×横75mm 二つ折り（出来上がり名刺大）

部数：30,000部

### ○ 配付先

県内市町村及び警察関係機関、各種相談窓口、弁護士会関係、県内産婦人科医、小学校・中学校の養護教諭、特別支援学校各学級担任及び養護教諭、高等学校全生徒、県内大学、専修学校、各種学校など

## 4. 実施の成果

相談件数の明らかな増加はまだ見られないが、周知が進んだ。

## 5. 実施後の課題（現状）

一定の周知は進んだものの、よりその樹とくしまに寄せられる相談はまだまだ少ない。平成27年の本県の強姦と強制わいせつの認知件数は計22件（強姦2件、強制わいせつ20件）であるが、被害者のうち1割～2割の人が警察に通報したと考えると、被害者は相当数いることになる。なぜ相談に繋がらないのか分析を行い、広報を工夫するなど、対策を練る必要がある。

## 徳島県：講演会開催（広報啓発の推進・強化）

### 1. 実施前の課題

本県の性暴力被害者支援センター開設に当たり、相談窓口の周知を図るとともに、性暴力被害者支援の必要性についても、一般県民に向けて啓発を行う必要があった。

### 2. 実施による成果目標

講演会参加者120名以上

### 3. 実施結果

#### ○ 講演会

開催日時：平成28年12月8日（木）13：30～15：00

開催場所：徳島県庁

講師：フォトジャーナリスト 大藪 順子 氏

内容：立ち上がる選択～性暴力の被害者も加害者も生まない社会をつくるために～

参加者数：140名

アンケート結果：別添のとおり。以下は自由記載部分から。

- ・ 被害を受けた方の生の声を聞く機会が今までなかったのでショックでもありましたが心に響き勉強になりました。
- ・ 性暴力被害者の赤裸々な心情、そしてそこから立ち上がる強さ。こんな状況をなくすために何をすべきか、本当によく理解できました。
- ・ 性被害、性暴力については、本当に先入観が多いと思いました。社会を変えるため、ひとりひとりができることをしなければと感じました。 など

#### ○ 写真展（※当モデル事業による実施ではないが参考に記載。）

開催日時：平成28年12月8日（木）～同月10日（土）

開催場所：徳島県立男女共同交流センター（ときわプラザ）

内容：大藪 順子氏による写真展 「プロジェクトSTAND～性暴力サバイバー達」

参加者数：230名

アンケート結果：別添のとおり。以下は自由記載部分から。

- ・ 見ていくほど、足が重くなるように感じました。守られるはずの、守る側の人間からの暴力に対して、今までに知らなかったことを知ることができました。
- ・ 実際に被害にあわれた方々の写真は、メッセージ性が強く、深く深く考えさせられた。写真の説明文で「加害者は3～5年の刑に処せられたが、被害者は終身刑を科せられた」という言葉が印象的だった。 など

講演会や写真展の様子などを複数の新聞やテレビで取り上げてもらうことができ、参加者以外への周知にも効果があった。また、参加者が感想を新聞に投稿されるなど、反響の大きさを感じた。

（※広報用チラシ、新聞記事等別添）

### 4. 実施の成果

周知・啓発が図られた。

### 5. 実施後の課題（現状）

アンケートにおいても、今後もこのような講演会を開催してほしいとの意見が多数寄せられた。よりその樹の広報のため、また、性暴力被害者への支援の必要性の啓発のため、講演会の実施は非常に有効であったと言える。一般への啓発について、今後どのような方法を取っていくのかが課題である。